

Digest of Science of Labour

労働の科学

2 0 2 2
May
Vol. 77, No. 5



緑から青へ／山本美智代

特集

よりよい職場環境づくりに取り組む企業之力

クラレグループの安全の取組み『安全はすべての礎』／株式会社クラレ
女性が活躍できる職場づくり／株式会社松下産業
治療と仕事の両立を支援—従業員とともに豊かな人生を／藤沢タクシー株式会社

連載

労研アーカイブを読む⑦⑥

岸田孝弥

凡夫の安全衛生記⑬

福成雄三

漂流者たち—クミジヨの肖像⑭

巻頭言

人生100年時代
相田俊夫

連載

チャレンジ! SDGs⑫

泉 貴嗣

ILOインド・南アジアこぼればなし⑬

川上 剛

労働の科学



巻頭言

俯瞰（ふかん）

人生100年時代

相田 俊夫 [公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 相談役]

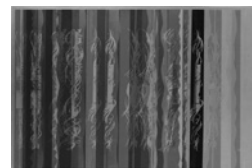
1

表紙作品：山本美智代

「緑から青へ」

版画・シルクスクリーン（73×50cm）

表紙デザイン：大西文字



よりよい職場環境づくりに 取り組む企業之力

クラレグループの安全の取り組み『安全はすべての礎』

..... [株式会社クラレ 環境安全センター] 木戸 洋一，徳田 佳弘 4

女性が活躍できる職場づくり

..... 株式会社松下産業 11

治療と仕事の両立を支援

従業員とともに豊かな人生を

..... [藤沢タクシー株式会社 代表取締役] 根岸 茂登美 17

Graphic

写真でみる労研の歩み (3)

..... 口絵

Series

「#教師のバトン」で伝わる (12) 教職員の過酷な勤務環境	藤川 伸治	22
ILOインド・南アジア こぼればなし (13) インド・ジャールカント州の雲母採掘・加工職場	川上 剛	25
芸能従事者の今 (11) 令和3年度の労災調査 ②	森崎 めぐみ	28
チャレンジ!SDGs (12) 「SDGs商法」を考える	泉 貴嗣	40
漂流者たち クミジョの肖像 (14) 『クミジョ白書2019』 (2)	本田 一成	42
労研アーカイブを読む (76) 第二部・実証的解明	岸田 孝弥	44
凡夫の安全衛生記 (63) 「さまざまな組織・立場で②」 頭でっかちに考えていた	福成 雄三	50

Column

つれづれなるままに ポンペイ遺跡とパドヴァ大学	千葉 百子	32
Talk to Talk 生きるその場で	肝付 邦憲	52
KABUKI 京鹿子娘道成寺 歌舞伎で生きる人たち その十四——うつろいゆく時のなかで	湯浅 晶子	54
BOOKS 『Numbers Don't Lie 世界のリアルは「数字」でつかめ!』 数字を使って物事を深く捉えてみよう	椎名 和仁	56
労働科学のページ		58
次号予定・編集雑記		64



人生100年時代

労働科学研究所初代所長 暉峻義等は創設後まもなく、ヨーロッパに派遣されたが、1922年10月に創設者大原孫三郎社長宛書簡をよこしている。研究などの近況報告のあと、「大原さん、まだ夜業はおやめになりませんか。若い子女が夜業をしなくてはならないよふでは文化もなくありません。病院が出来たとて、何等の効果はありません。病院の意義が鮮明になるためには、夜業廃止が第一だと存じます」と記している。労研は女子夜業の調査から始まったとはいえ、30才過ぎたばかりの暉峻の歯に衣着せぬ物言いは、両者の深い信頼関係を彷彿させるものがある。筆者にとっては、丁度創設に向け、建設真つ只中の当院について言及されており、大変印象深い書簡である。女子夜業は当時の紡績業にとり、国際競争上死活にかかわる課題であった。孫三郎の基本スタンスは経営における合理性の追及と職員の人格尊重双方を満たしつつ社会の基本的課題について取り組むことであった。

小林一茶の「雪解とけて 村いっぱいの 子供かな」という好きな句がある。雪国に疎開していた子供の頃を思い出し懐かしく感じる。今や少子高齢化も進み、2040年には高齢者がピークに達し、現役世代人口が急減する時を迎える。「村

いっぱいの子供」も遠い昔の風景になってしまった。孫三郎が生きておれば、高齢者問題はまさに社会の最大課題として、ジェロントロジー研究所を設立し、高齢社会における個人と社会の課題解決に向け努力したことと思う。国も重要性を十分認識しており、少子高齢化に対応するため、働き方改革関連法を成立させ、2019年より順次施行されている。また昨年は、高齢者雇用安定法により、努力義務ではあるが70才雇用を定めた。

高齢社会には課題は多い。しかし、職業人生の長期化こそ多くの元気な高齢者にとり、経済生活、生きがい両面の解決に繋がり、最重要な課題といえよう。現在、多くの企業で行われている労働法を遵守する形での雇用延長では徐々には改善され、また高齢者雇用の下支えにはなっているが、期間、量、スピードとも不十分である。

人生100年時代の就労支援策は80才ないし85才を視野に、新しいコンセプトで、①同一企業にとらわれない幅広いオープンな就労機会構築 ②現役時代から人生を通じてのキャリア形成、③変化適応能力の獲得などを官民あげて実行することが有効であろう。

高齢者については、年齢上昇とともに認知症発症率が高まるとか、運転免許返



あいだ としお
公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構 相談役
大原記念労働科学研究所 評議員

相田 俊夫

還キャンペーンとか、ともすれば雇用に際してのマイナスイメージが強い。このような点も含め、学術・科学的に高齢者雇用のあり方について労働科学研究所も多角的に参画していくことが大いに期待される。医療や疾病予防の進歩、健康生活習慣の定着等により、今後さらに健康寿命は延伸されるが、長寿がリスクになるような社会では極めて残念である。高齢者就労環境の整備の難易度は高いが、改善が十分進まないうち健康長寿の大部分が人口構成的に通り過ぎていつてしまうようでは不幸である。なんとか2030年ぐらいいまでは雇用環境が整い、高齢者が元気いっぱい活躍する日本になることを願っている。

一茶が見ればどのような句を作るだろうか想像してみるのが楽しい。